

## 院生研究室から

ロシアによるウクライナ侵攻、3年目となる新型コロナウイルスの感染拡大や急激な円安による混乱の中、今年度も先生方をはじめ皆様のご尽力のもと、『人間健康研究科論集』第6巻が発刊される運びとなりました。

わたしは「ダンス×福祉」を自身の研究テーマに掲げ、スポーツと福祉が融合したこの学舎で学部生の頃から学んできました。スポーツと福祉はどちらも人々の健康や幸福に関連する学問です。わたしは地域連携事業「みんなで踊ろう」に参加されている地域の高齢者と踊ったり、知的障害者施設や不登校児童が通うフリースクールでダンス指導をしたりする中で、ダンス（運動）を通して身体にアプローチすることで、次第に心もほぐれていくことを実感しました。人間の健康（Health）と健幸（well-being）の推進には、学際的かつ実践的な考え方を持つことが必須と考えられます。

今回投稿された2つの研究は、一方は運動生理学、もう一方は社会福祉がテーマであり、着眼点も、一方は個人の身体、もう一方は国の社会政策と、全くの別分野のように見えます。しかしながら、個を考えることも社会を考えることも人々の Well-being につながっていきます。今後の情勢には未だ見通しが持てませんが、このように研究を続けて努力していくことが希望を見出す一助になるのではないのでしょうか。

ここで、最近の院生研究室について少し述べておきたいと思います。人間健康研究科の留学生の割合は5割を超え、特に福祉系のゼミでは日本人が少数派になっています。院生研究室で勉強していると、いつもさまざまな言語が耳に入ってきます。自国語の論文でさえ執筆するのに四苦八苦しているわたしにとって、彼・彼女らの努力には驚くばかりです。年齢や国籍も様々な人々が集まる人間健康研究科の院生研究室ですが、それぞれの多様性を尊重し、皆にとって刺激的でありながら居心地のよい場にしたいと思います。

末筆ではございますが、お世話になった皆様に感謝申し上げます。

人間健康研究科 博士課程後期課程

眺野花

